

平成25年度 小平市市民活動支援公募事業が決定しました

市民活動支援公募事業は、市内で活躍する市民活動団体などの事業を支援し、団体が自主的に企画する公益的な事業の経費の一部を補助するものです。今年は、事業にかかる費用の内に1/2を補助する一般団体コースに加えて、活動実績3年未満の団体が対象の立ち上げ団体コースもできました。

「世代をつなぐサークル芸「タケ・コウイチによるサークル芸の体験ワークショップと観賞会」小平こども劇場

「男性介護者支援事業」 男性介護者の集い「かずらの会」

「地域コミュニティの啓発事業」 コミュニティ・サロン「アットホーム はぎ」

「やすらぎコンサート Sana(さ~な)」 やすらぎコンサート Sana

「鷹の台団地50周年記念文化事業」 鷹の台団地小平自治会

サークル芸の体験ワークショップと観賞会 「オーララ!! タケちゃん まつ逆さま」

小平こども劇場

舞台鑑賞部の人、一木さんにお話を伺いました。

会場にいる様々な年代の人たち、大人も子どももご近所の人たちも遠方から来た人たちもみんながハラハラ・ドキドキしながら曲芸を見ることで顔見知りになったり、声をかけ合ったりする。それがサークル芸の醍醐味だ、ということでした。

サークル芸を見せる「オーララ!! タケちゃん、まつ逆さま」は、タケちゃんが椅子を積んだ上で逆立ちをしたり、足場の悪いところでバランスをとりながら、ジャグリングをみせます。「オーララ!!」はかけ声。体験ワークショップでは、子どもたちがボールジャグリングの体験をすることができます。タケちゃんは、サークル団の出身ではなく成人してから練習を積んで曲芸師になりました。一生懸命練習すると何かができるようになることを子どもたちに伝えてくれます。

小平こども劇場は、「演劇、音楽、芸能など、子どものための優れた舞台芸術を鑑賞することと、キャンプ、子どもまつり、表現活動など、幅広い活動を地域に創りだしている文化団体」です。「小平こども劇場としてもサークル芸を見るのは10年ぶりくらい」。一木さん自身も、タケちゃんの公演をとても楽しみにしていることがわかりました。今年、小平こども劇場は設立20年目を迎えるそうです。オーララ!! 小平こども劇場。



鑑賞会

11月17日(日) 13:30-14:30

小平元気村おがわ東 屋内広場

参加費 大人 1,000円

子ども 500円(3歳~18歳)

*2歳以下の子どもは無料

体験ワークショップ

11月3日(日) 13:30-16:00

小平元気村おがわ東 多目的ホール

定員 20名(申込み先着順)

参加費無料(鑑賞会参加者の子ども優先)

男性介護者の集い「かずらの会」の 男性介護者支援事業

かずらの会

改めて言うまでもなく高齢化は急速に進んでいます。健康で元気に過ごせればいいのですが、介護が必要な高齢者も少なくありません。介護保険制度ができましたが、介護をしているのは配偶者や子どもなど家族で、多くの方が在宅介護をしています。

しかし、介護をしている家族は介護についての知識や技術を習得していませんから、心身の負担は測り知れません。そこで地域で家族を支える「地域包括ケアシステム」ができましたが、未だ認知度が低く、その機能が充分に活かされていません。社会的介護は質・量ともに不十分です。

家族の在宅介護を少しでも楽にするために求められるのは、介護経験があり介護についての知識の豊富な人と話ができる、抱えている問題や課題を解決する方法、ヒントを得られる「場」です。しかし、そうした「場」に来るのは女性が多く、介護の負担を重く感じているはずの男性の姿はまばら。

孤立しがちな男性が気軽に参加できる「場」として、今年7月19日に初めて小平市に生まれたのが、男性介護者の集い「かずらの会」です。10月は11日、11月は15日に小平市福祉会館で定例会を行います。

代表の鷺野倫明さんは、「介護経験者として、今まさに直面している方の不安に応えながら諸問題と一緒に考えていきたいと思っています。同時に、誰もが自分の意思に沿う最期を迎えるかもしれません。そのためにはどんな準備と社会資源が必要かも考えていきたいですね。」と話していました。



夏の定例会の様子

コミュニティ・サロン「アットホーム はぎ」の 地域コミュニティの啓発事業

今年7月31日、たかの台にあるアパートの1階にコミュニティ・サロン「アットホーム はぎ」がオープンした。6畳ぐらいの部屋に大きなテーブルを囲んで男性が5人、女性が9人、お茶とお菓子を口にしながら談笑している。いかにも親しそうな雰囲気。最長老95歳という男性の誕生日ということでバースデイ・ケーキが出され、男性は宇宙旅行、実は2週間ほど入院してきた話を楽しそうに語っている。

代表の萩谷洋子さんに伺うと、みなさんとは40年ぐらい前からのお付き合いとか。「親しくなれたのは問題があったから」だそうです。出会った頃、公道はアスファルトだったが私道はやり道。雨が降ると雨水が私道に流れ込む。下水道が完備されてなかったから汚水の処理に困り、女性たちが結束して市役所に改善を要求に行ったり、協力して排水溝を造ったりした。

それから40年近く経った今年、萩谷さんが自宅をリフォームしたとき、仮住まいにしていた萩谷さんのアパートの部屋をどうするか、という話になった。そこで出たのが「地域の交流の場にしたら」という提案だった。話が決まるといろんなで大きなテーブルを自宅からアパートの部屋に運びこみ、アパートの壁をきれいにし、4組の夫婦=8人で運営団体を結成した。

「ここを、だれもが気兼ねなく話せて、家庭的な温もりと出会いを大切にする居場所にして、元気な顔が見える、安心して過ごせる、やさしい地域づくりを目指します」と、萩谷さん。なんだか楽しそう。



サロン風な室内でくつろぐみなさん



「七夕コンサート」の様子



鷹の台団地小平自治会

やすらぎコンサート Sana(さ~な)

小平市内にある国立精神・神経医療研究センターに2年前から通院していた星美智子さんは、昨年、病状の回復をきっかけに病院へのお礼とリハビリを兼ねて、病院のロビー・コンサートに出演したいと申し出た。担当医の許可と病院スタッフの協力を得てコンサートは実現。

9月26日午後2時から、賛同したピアニストの木村緑さん、クラリネット奏者の山本靖子さんと共にロビー・コンサートを行った。歩けない人は電動車イスで、寝たきりの人はストレッチャーで長期入院中の人が聴きに来たという。音を聴いて言葉を話せない人が声を出し、コンサートが終わると3人のところへ来て、「涙が出たよ」「感動した」「よかった」と話したそうだ。

病院で毎日を過ごしている人たちにとって音楽は心を癒すものだ、ということを実感した星美智子さんは、「音楽を聞いて元気になってほしい」という願いを込めて、イタリア語で「健康な」という意味の言葉 Sanaを入れた「やすらぎコンサート Sana」をグループ名にした。そして病院や障がい者の施設などでコンサートをする活動を始めた。

今年7月に国立精神・神経医療研究センターで「七夕コンサート」を行い、10月18日には公立昭和病院でホール・コンサートを行う予定。コンサートで星さんが歌う曲はオペラやミュージカルだけではない。浴衣を着て日本の歌を歌ったり、懐メロを歌うこともある。

星さんは、「病気の薬の影響で記憶に自信がないので譜面を見て歌っている」そうだが、活動を通してレパートリーが広がり、歌う場が広がり、交わる人との輪が広がっている。歌うために食事をしっかりとり、ジムで体を動かし体調を整えるようにもなった。

「コンサートは病院や施設そして共演の仲間など、たくさんの人の協力の下で成り立っています。みなさんに感謝をしつつ息の長い活動をしたい」と星さん。「やすらぎコンサート」は、音楽を聴く人にとっても、星さんたちにとっても、元気になれるひとときなのだ。

鷹の台団地50周年記念文化事業

鷹の台団地は、小平市上水新町と国分寺市北町にまたがる地域にあり、ここに家を建てた約200世帯の人たちが自治会をつくって50年が経ちます。3代にわたって住み続けるお宅から、数年前に引っ越してきたお宅まで、様々な人たちが暮らす「団地」です。

「交流は、町の成り立ちを知って、愛着を持つことから始まる」と、言い出したのは防災担当の岩井さんです。役員のみなさんは、前会長吉田さんの主導の基に住民の交流のための『鷹の台団地今昔物語』を編纂中です(平成25年度未完成予定)。引っ越し当時は街灯が全くなかったため、夜は真っ暗で道に迷い、駅から自宅まで数分のところを何時間もかかった、という信じられない話がありました。また、自然がとても豊かだったので、たくさんのホタル、トカゲ、カエルなどを、学校の帰り道にポケットいっぱい詰め込んで母親を驚かせた、という話があったり、みなさんの昔話は尽きませんでした。

『鷹の台団地今昔物語』は、主に住民の投稿からなります。回覧板で原稿・古い写真・8ミリビデオなどを募集しました。それらをパソコンで編集して公民館の簡易印刷機で印刷し、自分たちで帳合をして300部をつくる計画です。表紙は、画家で前役員の庄司さんが描くことになりました。また、住民に役立つ情報を配信できるようにと、パソコンが得意な池田さんがホームページをつくりました。これは、今の時代ならではの情報発信・収集の手法です。でも自治会長の森田さんは、みんなで団地内の三角公園に集まって語り合う楽しさも知っています。

お話の中に何度も出てきた市境にある三角公園